

## 日本物理学会領域2運営会議 議事録

日時: 2018年03月23日(金) 12:15-

場所: 東京理科大学野田キャンパス K608

司会: 領域2代表: 政宗、参加者約25名、書記: 大島

### 報告事項

以下、項目1-9について、政宗代表より資料を用いて説明がされた。

#### 1. 2018年4月からの新役員

領域代表	洲鎌英雄さん(核融合科学研究所)
領域副代表	藤田隆明さん(名古屋大学)
役員	大舘暁さん(核融合研)
役員	白石淳也さん(量研)
役員	森芳孝さん(光産業創成大)

- ・次期領域代表・副代表の推薦時期: 2018年秋季大会インフォーマルミーティング(⇒10月末)

#### 2. 2018年10月からの領域役員の推薦

- ・領域委員: 2018年10月-2020年9月、役員: 2020年10月-2021年9月  
次期領域役員の推薦時期: 2019年春・年次大会インフォーマルミーティング  
次期領域役員 佐々木 徹さん(長岡技術科学大学)  
次期領域役員 高橋 宏幸さん(東北大学)  
次期領域役員 山田 琢磨さん(九州大学)
- ・本運営会議中に了承された。

#### 3. 学生優秀発表賞受賞者報告

- ・2017年Plasma Conference 2017での受賞者  
43件(口頭発表17件、ポスター発表26件)の応募、4名を選出  
(前回は30名の応募あり)

○ 赤池聖公(京都工芸繊維大学工芸科学研究科)  
イオンプラズマの生成過程における巨視的不安定性とイオン漏出に関する研究

○ 白戸高志（東北大学大学院工学研究科）

相対論的 Vlasov-Maxwell 離散方程式系に関する数学的研究

○ 金 史良（九州大学総合理工学府）

乱流プラズマにおける非線形波の二次元構造の抽出

○ Nishizawa, Takashi（西澤敬之）(University of Wisconsin-Madison)  
Measurements of Impurity Transport Associated with Drift-wave Turbulence  
in a Reversed Field Pinch

・2018 年秋季大会から、物理学会が設ける賞として、「日本物理学会学生優秀発表賞」となる

#### 4. 若手奨励賞（2018 年）受賞者報告

(1)前山伸也・名古屋大学大学院理学研究科助教

研究題目 電子・イオンスケール乱流間のマルチスケール相互作用に関する研究

(2)文贊鎬（Moon, Chanho）マックス・プランクプラズマ物理学研究所研究員

研究題目 磁化プラズマ中電子温度勾配不安定性の研究

授賞式・受賞記念講演 本日午後 23pK601 13:35-14:45

#### 5. 2018 年第 73 回年次大会企画講演・シンポジウム提案について

・企画講演

1. 招待講演

Iwato Natsuyo(ILE, Osaka Univ.)

N. Iwata et al., Nat. Commun. 9:623 doi: 10.1038/s41467-018-02829-5 (2018).

N. Iwata et al., Phys. Plasmas 24, 073111 (2017).

A. Yogo, K. Mima, N. Iwata et al., Sci. Rep. 7, 42451 (2017).

2. 若手奨励賞受賞記念講演

シンポジウム提案

1. レーザーイオン加速の現状とその応用研究（仮題）

主旨説明：パルス幅が数フェムト秒から数ピコ秒という高強度レーザーの近年の発展により高強度場科学に関する研究が進んでおり、その中でもレーザーイオン加速はコンパクトなイオン源として期待されている。一方、レーザー加速は、将来必要とされる指向性やエネルギー単色性に課題をかかえている。近年、新たな

加速手法も提案・実証され、イオン源の研究として基礎研究が広がりを見せつつあると同時に、加速されたイオンを用いた核融合等への応用も提案されている。本シンポジウムでは、レーザーイオン加速研究の現状と最近の進展、課題に加え、加速イオンを用いた応用研究まで整理し議論することで、当該分野のさらなる進展を目指す。

登壇予定者

森田太智（九州大学総合理工学研究院） 趣旨説明

余語覚文（大阪大学レーザー科学研究所・実験）

福田祐仁（関西光科学研究所）

蔵満康浩（大阪大学大学院工学研究科）

城崎知至（広島大学大学院工学研究科）

森芳孝（光産業創成大学院大学）

村上匡且（大阪大学レーザー科学研究所・理論） まとめ（登壇者未定）

質問:シンポジウム内では同じ所属のものは発表できないのか？

(答え) 同じ所属の研究者は同時に発表できない。同組織であっても研究グループとして違えば問題ない。

## 6. 領域委員会報告

### 6-1 学生優秀発表賞を物理学会の賞とすることについて

・物理学会理事会にて承認され、2018年秋季大会から「日本物理学会学生優秀発表賞」として実施される。日本物理学会会長より賞状が授与される。ほぼこれまでの領域2の規定を踏襲する。

### 6-2 学生優秀発表賞実施要綱

- ・2017年12月9日に理事会にて承認された。
- ・以下に内容を添付。

日本物理学会 学生優秀発表賞 実施要綱 2017年12月9日 理事会

- (0) 目的：物理学会大会における若手の優秀な発表を奨励し、大会をより活性化するために本賞を設ける。
- (1) 賞の名称・賞状：本賞の名称は日本物理学会学生優秀発表賞とする。英語名称は、*Student Presentation Award of the Physical Society of Japan* とする。賞状は会長名において授与する。
- (2) 対象：物理学会正会員の内の大学院生または学生会員による当該大会の学会発表（口頭またはポスター）を授賞対象とする。
- (3) 授賞者の決定：会長／理事会は、各領域代表に受賞候補の推薦を依頼する。各領域において、附則(1)および附則(2)により、定められた審査員が発表を審査し、その結果を受けて各領域代表は受賞候補を理事会

に推薦する。推薦候補については、理事会において授賞を審議・承認する。

(4) 公表：承認後、日本物理学会 web ページにおいて、授賞者名、授賞講演タイトル等を公表する。

(5) 時期：2018 年秋季大会より授賞を始める。

(6) 取消：受賞者が本会の名誉を傷つける行為を行った場合、理事会は賞を取り消すことができる。附則

(1) 授賞人数等：授賞人数は、本賞の趣旨を逸脱しない範囲で各領域で場合に応じて決め、領域によっては推薦者なしでも良い。附則(2) 授賞規定・審査員：各領域代表は、受賞者決定のための、審査員選抜法を含む規則を設け、これを理事会に通知し承認を受ける(初回、および変更がある場合)。各領域代表は、審査終了後、審査員名簿を受賞候補名簿と共に理事会に提出し、承認を受ける。審査員名簿の理事会承認を受賞候補承認の必要条件とする。附則(3) 仮賞状の発行：各領域において、推薦が決まった段階で、理事会の承認を待たずに仮賞状を発行することができる。附則(4) 受賞回数：複数受賞は妨げない。ただし、各領域の独自規則により当該領域における受賞についてこれを禁止することはできる。

## 7. 領域 2 学生優秀発表賞実施要綱

・実施要綱が理事会で承認されたのを受け、領域 2 としての実施要綱を理事会に提出し、2018 年 2 月の理事会で承認された。

・以下に内容を添付

日本物理学会 領域 2 学生優秀発表賞授賞 規則 2018 年 2 月 17 日 日本物理学会 第 620 回理事会承認

### 1. 授賞の対象

学生優秀発表賞の授賞対象者は、次の資格を満たす応募者で、筆頭講演者かつ発表当日の登壇者である者に限ります。

### 2. 応募資格 および応募の方法

学生優秀発表賞に応募できる者は、講演申込みに大学・大学院または同等の機関に所属し、学部・修士・博課程 に在籍する者とします。 **1年以上日本に滞在し、かつ通常の課程の学生と同様に研究指導を受けている研究生も応募できるものとします。** 応募は学会講演申し込みと同時にを行います。応募件数は各大会一人1件までとします。

### 3. 審査委員会の構成および審査の方法

審査は、領域 2 代表を委員長とする審査委員会により、二段階審査で行われます。 **審査委員会は、領域 2 代表の指名に基づき、領域 2 役員会の審議を経て選出された委員により構成されます。一次審査は、経験豊富な 3 名の委員が実際に講演を聴き、研究内容、講演内容、質疑応答等を評価します。二次審査では、一次審査の結果を基に、審査委員会全体の合議により受賞者を決定します。**

### 4. 審査の基準

いずれの審査においても講演概要の内容、発表の分かりやすさ、発表内容の新規性や重要性、発表内容に対する学生本人の寄与度合いが総的評価されます。

## 5. 表彰

本賞は日本物理学会が表彰するものです。受賞者には、日本物理学会会長より賞状が授与されます。

・他学会等との合同セッション等での他学会への学生に対する授賞についての対応はどうか、について議論があった。物理学会としての規定に従うということで、物理学会員のみへの授賞に限る方針とすることで合意があった。

## 8. AAPS-DPP活動報告

- ・菊池先生からの資料を用いて、政宗代表が説明を行った。
- ・次回金沢にて石川県文教会館、金沢商工会議所会館にて2018年11/18-23に第二回年会。  
現地実行委員会:金沢大学 上杉先生
  - ・国際組織委員会議長 三間先生
  - ・物理学会として協賛で開催。

## 9. その他

### 9-1 US National Academies Interim Report

- ・USにて今後のITER参画に対する調査がされたという報告があった。ITER撤退の可能性も含めて議論されている。現在最終報告についてまとめている最中とのこと
- ・以下のリンクよりレポートを確認可能。  
<https://doi.org/10.17226/24971>.

### 9-2 領域2講演数の推移について報告。

- ・今回160件の発表。
- ・3学会合同の際はこれまで200名以上が参加されていたが、今回は少なかった。
- ・今後に向けてコーディネータ方式の導入などの提案があった。

### 9-3 Plasma ML 加入方法の確認

- ・登録希望者（メールが来なくなった人含む） [PlasmaML-owner@nifs.ac.jp](mailto:PlasmaML-owner@nifs.ac.jp)にまで連絡。
- ・メール題目に「PlasmaML新規登録希望」、本文に自身の物理学会会員番号と氏名を明記して、[PlasmaML-owner@nifs.ac.jp](mailto:PlasmaML-owner@nifs.ac.jp) に送ることで加入可能。

9-4 領域2懇親会

3月23日（金）19:00-

佐渡蔵 柏店

以上